

						授業コード		4064	
授業科目	成熟期看護方法8 (認知症・寝たきり高齢者看護方法)  Nursing of Adults 8 (Nursing of Dementia and Bedridden Elderly)	責任教員	古川 直美	単位数	1	科目区分	必修	科目履修	可
				時間数	30	開講セメスター	4		
目的と目標	目的：高齢者特有の健康問題である認知症や寝たきりについて、その予防とこれらの健康問題を有する高齢者と家族への看護方法について理解する。  目標：1. 認知症の特性を理解し、その進行の予防的看護および認知症発症後の高齢者とその家族への看護方法について理解する。 2. 高齢者が寝たきり状態に至る要因とプロセスを理解し、寝たきりの予防的看護および寝たきり状態に至った高齢者とその家族への看護方法について理解する。								
回数	学修課題	内容並びに方法						担当教員	
1	認知症および寝たきり高齢者の看護方法の概説	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症および寝たきり高齢者の疫学的特徴と看護支援の必要性</li> <li>認知症対策の動向、社会制度 (講義)</li> </ul>						古川	
2	高齢者の人権を尊重した看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の人権の尊重と看護職の倫理的責務</li> <li>高齢者の権利擁護の取り組み (身体拘束、虐待など)</li> <li>高齢者の人権を尊重した看護方法 (講義)</li> </ul>						古川	
3	認知症の医学的背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症の定義、病態、予防、薬物療法 (講義)</li> </ul>						宇佐美	
4	認知症高齢者への看護方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症になるということや、認知症とともに生きるということの意味の理解と看護援助の必要性</li> <li>行動・心理症状の生活への影響と看護方法 (講義)</li> <li>日常生活の支援方法 (講義)</li> </ul>						宇佐美	
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症高齢者のコミュニケーションの特徴と生活への影響及び</li> </ul>							
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニケーションの再構築への支援方法</li> </ul>							
7		<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症高齢者の意思決定を支える看護方法 (講義)</li> <li>非薬物療法と看護の役割 *事前に非薬物療法を調べ文献等を持参すること</li> <li>施設サービスおよび居宅サービスにおける看護の役割 (講義、グループワークと発表)</li> </ul>							
8	認知症高齢者とその家族への看護方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>認知症高齢者を介護する家族の生活と生活支援方法</li> <li>サポートシステムとサービス活用への支援 (講義)</li> </ul>						宇佐美	
9・10	治療を受ける高齢者への看護方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬物療法、手術療法を受ける高齢者への、早期回復・寝たきり予防に向けた看護方法、心身や生活の変化への適応を促す看護方法 (講義)</li> </ul>						堀田 橋本(薫) 古川	
11・12	虚弱な高齢者の寝たきり予防の看護方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>虚弱な高齢者が寝たきり状態に至る要因・寝たきり予防及び寝たきり状態における看護方法 (講義)</li> </ul>						堀田	
13・14	高齢者のエンド・オブ・ライフケア	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者のエンド・オブ・ライフケアにおける看護の役割</li> <li>終末期における身体徴候のアセスメントと看護方法</li> <li>終末期を迎える高齢者の家族への支援方法</li> <li>高齢者ケア施設における看取りの取り組みと課題 (講義、ディスカッション)</li> </ul>						宇佐美 授業協力者	
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習内容の習得状況の確認、振り返り (試験、講義)</li> </ul>						古川 宇佐美 堀田 橋本(薫)	
評価方法	授業への参加状況・提出課題 (40%)、試験 (60%)								
参考と資料	指定図書：看護学テキストNiCE 老年看護学概論 改訂第3版 (南江堂、正木治恵・真田弘美編) 2020. 参考図書：認知症看護入門(ライフサポート社、堀内園子) 2008. 認知症一専門医が語る診断・治療・ケア (中央公論新社、池田学) 2010. 認知症の人の生活行動を支える看護 (医歯薬出版、高山成子編) 2014. 看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア 第2版 (日本看護協会出版会、長江弘子編) 2018. パーソンセンタード・ケア<改訂版>—認知症・個別ケアの創造的アプローチ (かもがわ出版、スー・ベンソン編) 2007. 認知症ケアガイドブック (照林社、公益社団法人日本看護協会編) 2016. 認知症になった私が伝えたいこと (大月書店、佐藤雅彦) 2013. 看護学テキストNiCE エンド・オブ・ライフケア (南江堂、谷本真理子・増島麻里子編) 2022.								
事前準備	成熟期看護学概論、成熟期看護方法1・5・6・7・9、福祉学 (特に社会福祉学概論、社会保障制度論) などで学んだ知識が活用されることから、これらの復習が必要である。								
受講要件									